



# 軽防協ニュース速報

## 2020年第1四半期(1月-3月)の伝染病発生状況

2020年6月配信

(International Collating Centre からの情報)

この記事は、2020年第1四半期(1月-3月)の各国の伝染病発生状況の要約したものである。ICC 暫定(リアルタイム)のレポートは <http://jdata.co.za/iccviewer/> のページ内にある。このレポートに示されているデータには、各国の研究所での検査サンプルや、報告方法に多少のバイアスがあるかもしれないため注意して解釈していただきたい。そのため、これらのデータが必ずしも世界各地における馬の集団内での伝染病発生率を的確に反映しているわけではないことをご了承願いたい。例えば、ある伝染病について発生報告がないからといって、必ずしもその伝染病がその国の中で存在していないということではない。以下の各表は国によって報告された病気の発生件数をまとめたものである。1件の発生で複数症例を含むものがある。

### 繁殖疾患

発生国	EHV-1	レプトスピラ症	ノカルジア症
ベルギー	4	2	-
カナダ	1	-	-
オランダ	5	-	-
イギリス	4	-	-
日本	10	-	-
アメリカ	8	-	256 (症例数)

### 馬ヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による流産

#### ベルギー

3件の発生ではそれぞれ1例が流産した。また、1件の発生では1例で確定診断され、さらに5例の流産が発生した。確定診断は胎子組織のPCRによって行われた。2例はワクチン接種馬であった。

#### カナダ

1件発生し、2例が流産した。

## オランダ

4件の発生で、それぞれ1例ずつが流産した。また、1件の発生で2例が流産した。

## イギリス

4件の発生で、それぞれワクチン未接種の1例ずつが流産した。

## 日本

10件発生し、それぞれ1例ずつが流産した。うち1例はワクチン未接種馬であった。

## アメリカ

1件の発生では4例が流産した。また、他に7件発生しそれぞれ1例が流産した。

## レプトスピラ症による流産

### ベルギー

2件発生し、1件では1例が流産した。もう1件では1例が確定診断され、1例の感染疑いが報告されている。

## ノカルジア症による流産

### アメリカ

大部分はケンタッキー州で発生し、ペンシルベニア州とデラウェア州でも少数発生した。

## 呼吸器疾患

発生国	EHV-1	EHV-4	EI	腺疫
アルゼンチン	-	1	-	-
ベルギー	2	1	-	2
フランス	3	18	4	20
オランダ	1	2	2	24
スペイン	-	1	-	-
スイス	-	2	-	4
イギリス	-	5	-	-
アメリカ	6	-	9	16

## EHV-1による呼吸器感染症

### ベルギー

2件発生し、それぞれ1例ずつが発症した。1例はEHV-4との混合感染であった。

## **フランス**

2 件の発生でそれぞれ 1 例ずつが発症した。また、1 件の発生で 2 例が発症した。

## **オランダ**

6 例が発症し、臨床症状は発熱、鼻汁であった。

## **アメリカ**

3 件の発生でそれぞれ 1 例ずつが発症した。また、2 件の発生でそれぞれ 2 例ずつが発症した。また、1 件の発生で 5 例が発症した。

## **EHV-4 による呼吸器感染症**

### **アルゼンチン**

5-7 ヶ月齢の子馬で発症し、臨床症状は軽微であった。

## **ベルギー**

1 例が確定診断され、さらに 3 例に臨床症状が認められた。

## **フランス**

大部分の発生が単独発症例であった。その他、1 件でそれぞれ 2 例、3 例、15 例が発症した。

## **オランダ**

1 件の発生で 1 例が発症し、もう 1 件の発生で 3 例が発症した。両発生における全ての発症馬は新入厩であった。

## **スペイン**

1 例が発症した。

## **スイス**

1 例は腺疫との混合感染であった。また、1 件の発生で 4 例が発症した。

## **イギリス**

4 件の発生でそれぞれ 1 例ずつが発症し、1 件の発生で 4 例が発症した。これらの発生のうち 2 件は新入厩馬によるものである。

## 馬インフルエンザ

### フランス

1月に2件、2月に2件の計4件発生した。発症数はそれぞれ1例、2例、15例、20例であった。臨床症状は発咳、鼻汁、発熱であった。

### オランダ

1件の発生で3例が発症し、もう1件の発生で5例が発症した。

### アメリカ

単独発症例が2件、2例、3例、5例の症例を含む発生が1件ずつ報告された。また、約10例の発症が3件、約30例の発症が1件報告された。報告時にはワクチン未接種であった。

## 腺疫

国際的に腺疫は多くの国で風土病である。

## 消化器疾患

発生国	クロストリジウム ディフィシル感染症	クロストリジウム パーフリンゲンス感染症	ロタウイルス
フランス	-	-	2
スペイン	-	-	1
アメリカ	16 (症例数)	24 (症例数)	1

## クロストリジウム・ディフィシル感染症

### アメリカ

ケンタッキー州で16頭の子馬の検体から検出された。このうち2例はA毒素産生株、2例はB毒素産生株であった。

## クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症

### アメリカ

ケンタッキー州、インディアナ州で24頭の子馬の検体から検出された。

## ロタウイルス性腸炎

### フランス

全て単独発症例であり、糞便検体のPCR検査により確定診断された。臨床症状は下痢であった。

## スペイン

1 例が発症し、糞便検体の PCR 検査により確定診断された。

## アメリカ

ケンタッキー州にて 1 例が発症した。

### 神経疾患

発生国	EEV	EHV-1 神経型	VEE
ベリーズ	-	-	1
カナダ	-	1	-
オランダ	-	2	-
南アフリカ	159 (症例数)	-	-
スイス	-	1	-
イギリス	-	3	-
アメリカ	-	7	-

## 馬脳症 (Equine Encephalosis Virus : EEV)

### 南アフリカ

南アフリカにある 9 つの州のうち 7 つの州で発生が報告され、ハウテン州ではこの四半期で 100 例以上が発症している。

## EHV-1 による神経疾患

### カナダ

1 例が発症し、安楽死処置された。

### オランダ

1 件の発生では 2 例が発症し、臨床症状は運動失調、発熱であった。もう 1 件の発生では 7 例が発症し、臨床症状は後躯麻痺、尾の脱力、膀胱膨満であった。確定診断は、鼻咽頭スワブと EDTA 血の PCR 検査によってなされた。

### スイス

1 例が発症した。

### イギリス

1 月に 1 件、2 月に 2 件の発生が報告された。1 件の発生では 9 例が神経症状を呈し、3 頭が安楽死処置された。次の 1 件の発生では 15 歳の馬が発症し、運動失調と尿路閉塞が進行したため安楽死処置された。最後の 1 件の発生では 1 例が運動失調を発症したが、

1 週間以上経過し回復した。全症例において確定診断は、鼻咽頭スワブの PCR 検査または補体結合試験による抗体陽性の判定によってなされた。

## アメリカ

全てが単独発症例であった。報告があったものでは、感染した症例の年齢は 6 歳、14 歳、19 歳、21 歳、26 歳であり、3 頭が安楽死処置された。

## ベネズエラ馬脳炎 (VEE)

### ベリーズ

5 例のワクチン未接種馬が発症し、4 例が死亡した。

## その他の疾患

発生国	AHS	コロナウイルス感染症	EIA	EVA	ピロプラズマ
カナダ	-	-	1	-	-
フランス	-	-	-	1	-
南アフリカ	風土病	-	-	-	93 (症例数)
タイ	3	-	-	-	-
アメリカ	-	1	3	-	-

## アフリカ馬疫 (AHS)

### タイ

今回がタイにおける初めての発生である。これまでのところ、3 件の発生で 78 例が発症し、57 例が死亡している。

### 南アフリカ

南アフリカの 9 つの州のうち、流行地である 8 つの州で予想されるレベルでの発症が認められ、特にハウテン州で最も発症が多い。西ケープ州の AHS 感染地域や AHS 管理地域での AHS は認められなかった。

## コロナウイルス感染症

### アメリカ

1 例が発症した。臨床症状は食欲不振、発熱、横臥であった。

## 馬伝染性貧血 (EIA)

### カナダ

無症状の 1 例が確認された。

## **アメリカ**

輸出前検査において 1 例の陽性が確認された。また、1 件の発生では 1 例、他の 1 件の発生では 3 例の陽性が確認された。

## **馬ウイルス性動脈炎（EVA）**

### **フランス**

3 例の種雄馬の精液検査にて陽性が確認された。

## **ピロプラズマ病**

### **南アフリカ**

ピロプラズマは南アフリカの風土病である。散発的に国中で報告されている。